



<今月のご案内>

黒松内版 森林療法体験会 おさんぽの会



歌オ森林公園のコース(往復約3キロ)を、季節の自然を楽しみながらゆったりとウォーキングします。自然を五感で楽しみながら、心も体もリフレッシュしましょう！ (雨天中止・小雨決行)

【日 程】10月12日(日)

【時 間】10:00~12:00(目安です)

【集 合】黒松内温泉ぶなの森 左側集合

【持ち物】ウォーキングしやすい服装、靴、帽子、飲み物、虫よけ など

【申込み】不要

～秋のブナ林・基本情報～

ブナは紅葉？黄葉？

ブナの葉は何色に色づくのですか？とよく聞かれます。図鑑には「秋には黄色に色づく」とありますが、実際に観察してみると、黄色から黄金色に、さいごに琥珀色に近い茶色となって散っていきます。

ですから、ブナの場合、「紅葉」(こうよう)ではなく「黄葉」(こうよう)と表現します。

ブナの黄葉は遅い

ブナ林では、9月下旬頃、ツタウルシやヤマブドウなどのつる性植物の紅葉が始まり、10月前半には、イタヤカエデやハルニレなど、多くの樹木が色づき始めます。ブナの黄葉はやや遅く、10月20日前後、他の木々が散り始める頃ようやく黄色くなり始めます。

ただし、その年の気候によって黄葉のすすみ具合は異なり、一気に全体が黄金色になって、散っていく年もあれば、緑色と黄色と茶色の葉が混在した状態が長く続く年もあります。

1㎡あたりの健全果の数(個/㎡)



森へ行こう

秋のブナ林散策



ブナの大木が立ち並び、歌オブナ林。10月後半、ブナの葉は黄色く色づきはじめ、やがて森全体が黄金色に輝きます。秋ならではのブナ林の様子を観察しながら、のんびりと歩きましょう。

【日 程】10月25日(土) 9:00~12:30

※予備日：10月26日(日) 同時刻

【場 所】歌オブナ林

【集 合】歌オブナ林駐車公園

【定 員】20名

【参加費】300円(ブナさぽは無料)

【申込み】前日17時までにブナセンターへ

【持ち物】長靴、雨具、防寒具、飲み物、

【その他】小雨実施・荒天中止



黄色く色づくブナの葉

今年はブナの実是不作

昨年、歌オブナ林では、ブナの結実調査を始めた1994年以来、最多の大豊作年でした。これまでの調査で、豊作年の翌年は花を咲かせないことが多いとわかっています。結実に大量のエネルギーを使い果たしてしまうのでしょう。今年の春もブナの花は観察できませんでした。よってこの秋は、ブナの実ほぼゼロの年となりそうです。



←歌オブナ林の結実量の変化(1994年~2024年)



歌オブナ林は2028年に天然記念物指定100周年を迎えます



FacebookのQRコードはこちら

発行所：黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ブナセンター 夏のイベント 報告(part2)

2025年8月17日 実施
1回目 午前(子ども向け)
9:00~12:00
2回目 午後(大人向け)
18:00~19:30

去る8月17日、今年度のブナセンター賞※を受賞した三枝弘典さん^{みえだ ひろのり}(北海道大学)を講師にお迎えして、ヤツメウナギに関する講座を2回行いました。ヤツメウナギは、かつては黒松内でもよく食べられていた身近な生き物です。しかし1990年代から数が減り、今では環境省の絶滅危惧種に指定されています。

黒松内の50歳代以上の方には「懐かしい!」それより若い方には「なにそれ?初耳!」というヤツメウナギ。いったいどんな生きものなのでしょう…?

※ブナセンター賞とは※
黒松内生物多様性保全奨励事業として、町の生物多様性に寄与する研究を助成する賞です。受賞者は黒松内をフィールドに研究調査を行い、毎年2月または3月に成果発表会で調査報告をしています。



え〜?
ウナギじゃ
ないの?

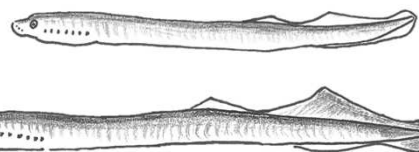
こんな砂の中に
もぐっちゃうんだ!



三枝さんと水槽展示をつくる子どもたち

わくわく土曜日ランド(町内小学生対象)

ヤツメウナギはかせに きいてみよう



ヤツメウナギってどんな生きものだろう?見たことがないと子どもたちに、最初に想像で「ヤツメウナギ」を描いてもらいました。ポイントは、目・ロ・ひれ。十人十色のヤツメウナギができました。

その後、三枝さんから、ヤツメウナギが何の仲間か(ウナギの仲間ではないんです!）、食べているもの、すんでいる場所、どのようにして捕まえるのか?などを教えてもらいました。その後、生きたヤツメウナギを観察しながらスケッチし、目・ロ・ひれの正しい位置を確認しました。最後に、参加者が協力して水槽展示を作成。ヤツメウナギのすみかを再現してみました。

ブナセンター講座(中学生~大人対象)

ヤツメウナギを知ろう

午後は大人の部を開催しました。三枝さんからヤツメウナギの生態やヤツメウナギが現在おかれている状況について、より詳しく解説していただきました。

講義後の質疑応答では、三枝さんのヤツメウナギ捕獲・研究グッズを見ながら、和気あいあいとした雰囲気でお話をしました。



ここがフシギ! ヤツメウナギ

- 哺乳類や魚類が生まれる前、恐竜よりももっと昔(約5億年前のカンブリア紀)から地球にすんでいた!まさに生きた化石。^{えんこうい}
- ウナギの仲間かと思っていたら魚類ではなく、円口類。
- 「ハツ目」ではない!目ができるのは大人になってから。
- 大人になって海に出るヤツメウナギ(カワヤツメ)は魚に吸い付き、血や肉を吸う。大人になっても川に残るヤツメウナギ(スナヤツメ)は、大人になると何も食べない。
- 河川改修や捕りすぎが原因となり、各地で数が減少している。



三枝さんは現在、朱太川にいるヤツメウナギの種類やどんな環境にすんでいるかを調査しています。調査の結果により、ヤツメウナギにとってのすみよい環境がわかり、朱太川がととのえば、ふたたび食卓にのぼる日がくるかもしれません!来年2月には成果発表会で経過報告があります。お楽しみに!